



論理的な安全衛生管理の推進・定着

未来の確かさは、論理的な安全衛生管理によって実現されます。経験や感覚だけでなく、科学的な根拠を伴った調査を継続し、安全衛生管理を深化させましょう。

事業場名、所在地

記入担当者

部署名

職氏名

労働災害検証結果等報告書

すべての労働災害は、「災害発生プロセス」を経て発生します。このため労働災害の検証等は、「災害発生プロセス」に沿って行うことが最も論理的です。

次ページの左欄「1. プロセスに沿って災害を検証する」及び右欄「2. プロセスに沿って対策を検討する」に順に記載を行い、検証等を行うことで、論理的な安全衛生管理の推進・定着を目指しましょう。

次ページ記入にあたっての留意点

1. プロセスに沿って災害を検証する

「災害発生プロセス」に沿って、実際に発生した災害を検証します。なぜプロセスの進行を止められず災害発生に至ったかを考えると、災害の本質が見えてきます。

現に行われていた対策に不足がなかったか、同種災害を防止するためにはプロセスのどの段階を制御することが適当であったか等を考えます。

災害発生プロセス

危険源 人

危険状態

危険事象

回避失敗

危害

2. プロセスに沿って対策を検討する

「災害発生プロセス」に沿って対策を検討します。一般的にプロセスの上流に働きかけるほど対策の効果は高くなります。

プロセスに沿って検討することで、対策の有効性、信頼性、残留リスク等が明らかになり、経験や勘に頼って考えることが多かった従来に比べ、より論理的、効果的、経済的な対策樹立へと繋げることができます。

お問い合わせ先

愛知労働局労働基準部 安全課

〒460-8507 名古屋市中区三の丸 2-5-1
名古屋合同庁舎第2号館
TEL 052-972-0255

パラダイムシフト

「絶対安全」はあり得ない。災害の起きない状態を「安全」とする桃源郷から、わたしたちを囲む万物を「危険源」とし、危なさ加減を測り、それを承知して挑んでいる状態である、真の「安全」へ。論理的な安全衛生管理の推進は、「安全」の認識を変えることから始まります。

本報告書は、自主的な検討等を促す目的のものであり、内容の正誤を厳密に問うものではありません。事業場内で考え、議論することのきっかけになさってください。

1. プロセスに沿って災害を検証する（下記の から にご回答ください）

「危険源」とは、労働者に負傷又は疾病を生じさせる根源となる物のことです。今回の災害のもとになった「危険源」は何ですか？ 該当するものに☑し、「危険源」の具体的な名称と、動力・電力等の大きさ、高さ、重さ等を記載してください。

回答 機械 電気・熱 騒音・振動・放射線 材料・有害物
 高所・足場・脚立等 重量物や無理な作業姿勢（腰痛等の場合）
 滑り・つまずきの原因物（転倒の場合） 上記以外

回答 （具体的に） _____

「危険源」だけではプロセスは進行しません。危険源と人が何らかの関わりをもつことでプロセスの次の段階「危険状態」が発生します。被災者は、回答「危険源」とどのように関わっていましたか？

回答 （作業内容等） _____

（ ~をしていて、「危険源」に近づいた、立ち入った、乗った、「危険源」を取り扱った・接触した等 ）

「危険状態」が発生していても、直ちに災害に至るわけではありません。安全装置の不備や作業方法の誤り等によって、プロセスの次の段階「危険事象」（人が何らかの回避行動をとらなければ災害に至る段階）が発生します。どのような「危険事象」が発生しましたか？

回答 墜落 転倒 激突 飛来・落下 崩壊・倒壊 激突され
 はさまれ・巻き込まれ 切れ・こすれ 高温、低温物との接触
 有害物等との接触 感電 爆発、破裂 交通事故
 動作の反動・無理な動作（腰のひねりなど） 上記以外 _____

「危険事象」の発生を認知すると、人は何らかの回避行動を取ろうとします。災害の直前、回答「危険事象」の発生を認知できましたか？ また、その後「回避」は可能でしたか？

回答 認知の可否 _____

回答 回避の可否 _____

回避に失敗すると、危険源が持つ危険性・有害性により、身体的・健康的な障害、すなわち、「危害」が発生します。今回の災害による「危害」の大きさはどの程度でしたか？ また、最大どの程度の危害になることが予想されますか？

回答 「危害」の大きさ（被災人数、休業日数等） _____

回答 最大どの程度になると予想されるか _____

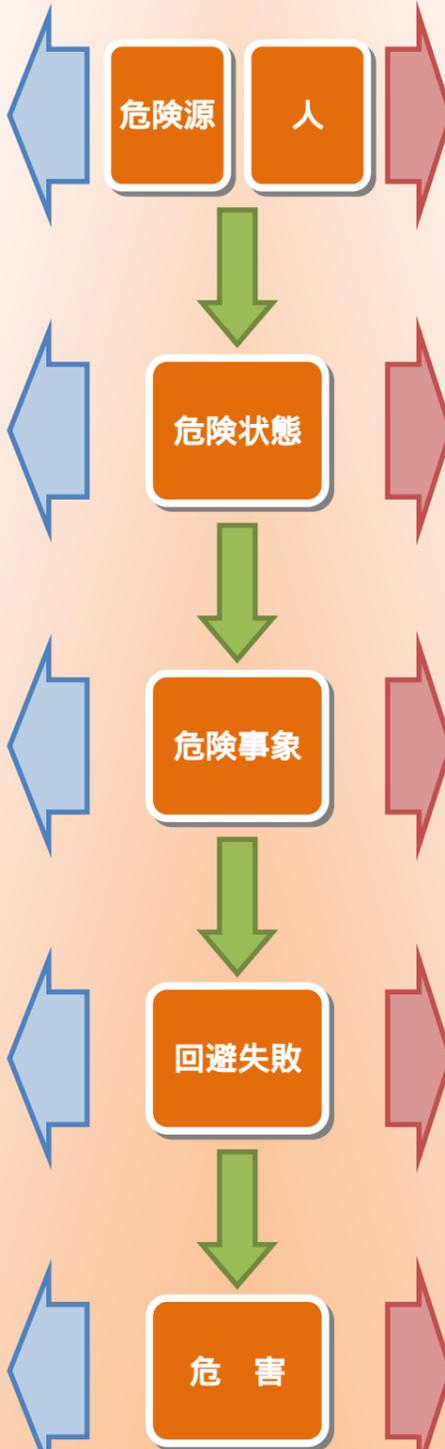
今回、結果的に災害が発生しましたが、あらかじめ何らかの対策が講じられていましたか？ 講じられていた対策の内容、プロセス上の作用点、不備があったと思われる点について記載してください。

回答 あらかじめ講じられていた対策の内容 _____

回答 プロセス上の作用点 危険源 人 危険状態 危険事象 回避 危害

回答 対策の不備 _____

災害発生プロセス



上記事項を踏まえて

2. プロセスに沿って対策を検討する（下記の から にご回答ください）

「危険源」への対策、「危険源」に関わらない作業方法の選択等
 ・「危険源」そのものを無くし、またはエネルギーを低減する方法
 ・危険性または有害性の低い材料へ代替する方法
 ・自動化や工程の変更等によって、危険源と人が近づく機会そのものをなくす方法

「危険源」への対策もしくは作業方法の選択等の観点から、対策を記載してください。

回答 _____

「危険状態」の発生を防ぐ対策

・柵やガードなどを設けて「危険源」と「人」が安全な距離を保ち、接触しないようにする方法

「危険状態」の発生に対して働きかける観点から、対策を記載してください。

回答 _____

「危険事象」の発生を防ぐ対策

・「危険源」と「人」が関わりを持った状態（危険状態）から、災害がまさに発生しようとする段階に至ることを防ぐ方法

「危険事象」の発生に対して働きかける観点から、対策を記載してください。

回答 _____

「回避」を補助する対策

・警報を鳴らす等により「危険事象」の発生に気づきやすくする方法
 ・機械の速度等を落とし、「危険事象」に気づいた際に回避しやすくする方法
 ・転落や転倒などの「危険事象」が起きかかった際に掴まれるよう、手すり等を設ける方法

「回避」の補助に対して働きかける観点から、対策を記載してください。

回答 _____

「危害」を軽減する対策

・災害が発生した場合に、安全带やヘルメット等の保護具によって危害のひどさを小さくする方法

「危害」の軽減に対して働きかける観点から、対策を記載してください。

回答 _____

検討した対策のうち、採用する（予定も含む）ものはどれですか？（複数回答可）

回答 _____

回答 _____

回答 _____

回答 _____

回答 _____

回答 _____